



一般社団法人 長野県環境保全協会

Nagano Association for Conserving Environment

未来に伝えよう かけがえない地球

エコシン

No.245 (2025 春)



気候変動の危機に挑む

平田 仁子

一般社団法人 Climate Integrate 代表理事

Climate Integrate



温暖化の水準はいよいよ危険領域へ

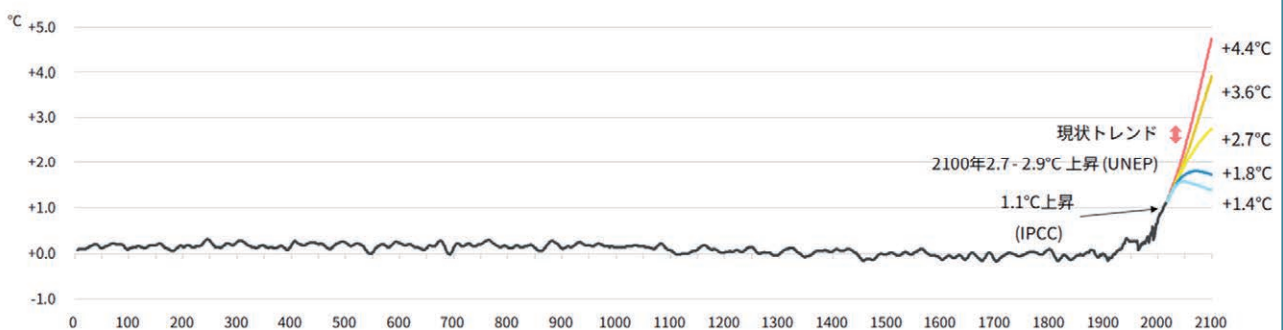
近年、地球の平均気温は、観測史上最も暑い1年を再び塗り替える状況が続き、2024年も非常に高い水準となりました。気候関連の災害は世界各地で激甚化し、異次元のスケールで猛威を振るい、私たちの日常生活や経済活動を脅かすようになりました。アントニオ・グテーレス国連事務総長は昨年7月、世界中を襲う熱波に対し、高齢者や乳幼児、労働者を守るよう呼びかけ、気温上昇を1.5℃に止めるよう緊急に呼びかけました。

4年前に発表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、産業革命前の水準から地球の平均気温がすでに1.1℃上昇し、今後、対策を取らねばさらに上昇することを指摘していました[図1]。ところが、最新の情報によれば、2024

年の平均気温が1.5℃を超え、1.6℃上昇だったということです。このままでは、1.5℃はおろか2℃に抑制することもできず、3℃上昇に突き進んでいきます。もはや非常事態同然です。

人類は、この「ずっと前から知っていた」問題に対して、あまりにも長い間無関心を貫き、まるで今の世界が続いていけるかのような楽観主義で日々をやり過ぎすぎました。その間も、化石燃料の利用は急速に増え、温室効果ガスも同時に増え続けています。その結果、これほどにも早く1.5℃を超えるほど温暖化が進み、災害や熱波などの異常気象を拡大させています。3℃の温暖化は、生態系の大絶滅と人間社会の破滅をもたらす世界であり、若者や将来世代に安心して引き渡せる世界では到底ありません。

図1 地球の平均気温と今後のシナリオ（西暦0年～2100年）



[出典] IPCC「第6次評価報告書 WG1 SPM1、SPM.8」より Climate Integrate 作成

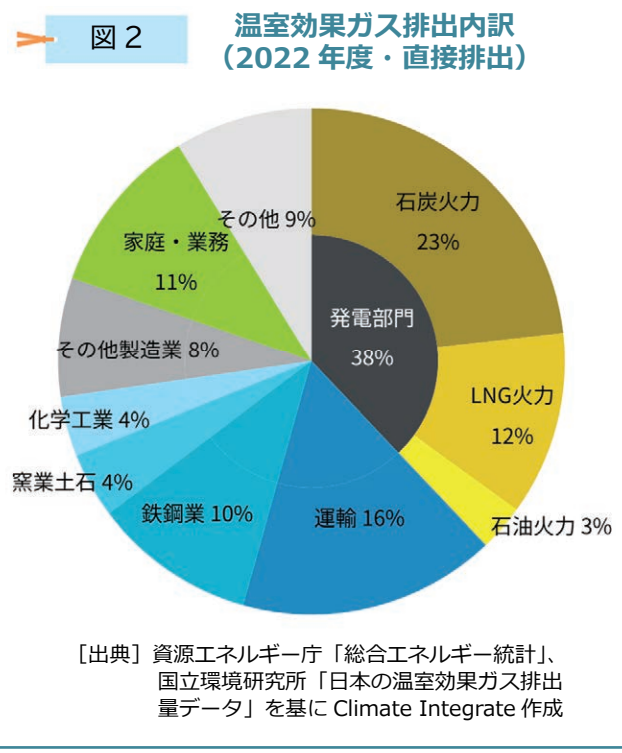
次ページへつづく

2024年12月、「クライメート ブレイクスルー賞」受賞、おめでとうございます！（編集部より）

変革に着手する時

私たちは偶然にも、長い人類史の中でとても重要な変革の時代に生きています。今年生まれた赤ちゃんが75歳になっている2100年に、3℃に温暖化した世界になっているのか、1.5℃の温暖化に抑えられた世界になっているのかは、私たちの選択と行動にかかっています。大きな責任です。

でも、手段はあります。必要なのは、身近な省エネといった小さな取り組みに留まっていたことや、先延ばしして手をつけてこなかったことを乗り越え、問題の根幹である化石燃料に依存した企業活動を根底から転換し、新しい経済社会づくりに着手することです。私自身、長い間この問題解決に取り組み、排出の多い部門 [図2] をどう変えていけるのかを考え、石炭火力発電の建設に反対したり、化石燃料事業に融資を続ける銀行に対して株主提案をしたりと、国内では大胆すぎると思われそうなことにもチャレンジしました。その取り組みは、「ゴールドマン環境賞」(2021年)やBBCの「100人の女性」(22年)選出などの国際的な評価を受けることとなり、無謀な挑戦なのではなく、今の社会に必要なことなのだと思われ背中を押してもらえました。



もはや待ったなしの気候変動の状況に対して今求められているのは、一步を踏み出す勇気なのだと思っています。

取り組みは地域から

そうは言っても、一人ひとりに脱炭素に向けてできることがどれほどあるのだろう、と問われるかもしれません。政府や大企業が果たすべき役割が大きいため、地域の個人や中小企業においてできることは限られると思いがちです。また、中国やアメリカなどが取り組まねば意味がないという主張も一理あります。確かにこのテーマは、地球規模の大きな課題です。世界では戦争や紛争が起これば、トランプ政権の誕生などで政治が揺れ動き、説明がつかないことも少なくありません。とはいえ、日本は世界で5番目の排出国であり、技術力、人材において対応能力が高く、アジア諸国の脱炭素化の加速にも大きな役割を持つ国です。さまざまな困難があるからこそ、また、1.5℃の実現が厳しくなっているからこそ、取り組みの加速を図る努力は一層重要になっています。

社会構造を変える、インフラを変えるという試みこそが重要ですが、対策の現場はすべて地域にあります。再生可能エネルギーを地域で拡大していくこと、住宅や建物の断熱を強化して

暖かい住まいを確保しながら省エネを進めること、交通流を効率化しながら電気自動車に転換することなどは、地域にメリットをもたらします。行政や民間企業との連携を広げていくことにより、さらに大きな取り組みに広がっていくことができます。交通や福祉、人口減少など、地域が抱えるさまざまな問題への対策と重ね合わせる工夫により、地域に良い相乗効果をもたらすこともできるでしょう。難しく思えることもやってみたらできた、良い効果が得られた、そんな事例を地域から作っていくことこそ、求められています。ぜひ皆さんも、脱炭素の実現の担い手となって力強い動きを作り出し、希望のうねりを広げてください。

平田 仁子 (ひらたきみこ)

出版社、米・環境NGOを経て、1998年から2021年までNPO法人気候ネットワークに勤務し、現在理事。2022年、気候政策シンクタンクの一般社団法人「Climate Integrate」を設立し、代表理事。千葉商科大学大学院客員准教授。著書に『気候変動を学ぼう』(合同出版)、『気候変動と政治』(成文堂)他。現在、月1回、信濃毎日新聞「思索のノート」に寄稿中。

2050信州ゼロカーボンチャレンジ!

2024 年度実施結果

家庭で地球温暖化防止のアクションを行うとともに、2050 年のゼロカーボンに向けて今からどんなことができるか、という課題に子どもたちがチャレンジするプログラムです。県内の小中学校から参加を募り、子どもたちに冊子を配布して、夏休みを中心に学校や家庭で挑戦してもらっています。

2024 年度は、「ながの海ごみゼロプロジェクト」のご協力をいただき、冊子『上流県「ながの」から海をキレイに』を併せて配布しました。



参加数

学校 13 校(小学校 9 校、中学校 4 校)、個人 4 名、計 1,492 名の児童・生徒にご参加いただきました。

チャレンジの結果

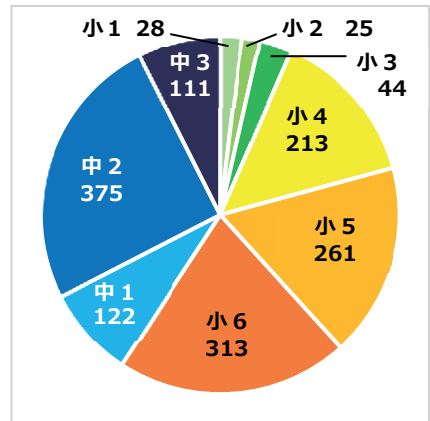
●チャレンジ 1 やってみよう! お家で地球温暖化防止

チェックリストにある「好き嫌いせずに残さず食べる」「ゲームはやる時間を決めて、約束した時間でやめる」など 24 項目から 5 項目選んで 7 日間チャレンジしてもらいました。このチャレンジでは、できた数を記入してもらいますが、最大 35 点(5 項目×7 日)のところ、全参加者の平均は 29 点でした。

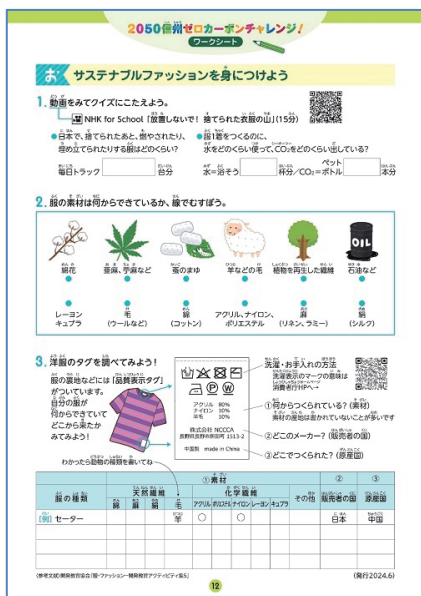
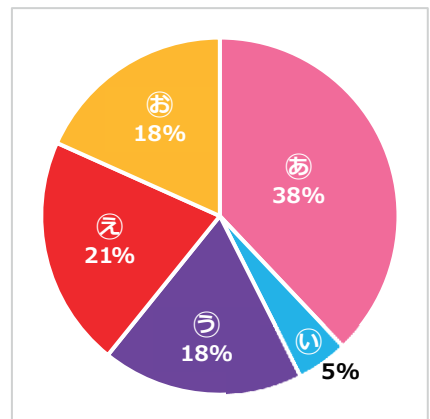
●チャレンジ 2 調べてみよう! 2050 ゼロカーボンへの道

次の㊸～㊻から 2 つ選び、「ワークシート」に記入しながらチャレンジしてもらいました。2024 年度は、㊻「サステナブルファッションを身につけよう」を新たに追加しました。一番多く選ばれたのは㊸で、以下、㊹、㊺、㊻の順でした。

学年別応募者数



チャレンジ 2



- ㊸ プラスチックごみを減らそう
- ㊹ お家の屋根でどのくらい太陽光発電ができるか調べよう
- ㊺ 「おいしい信州ふーど de ビンゴ」に挑戦しよう
- ㊻ かるたで遊んで「環境マーク探検」をしよう
- ㊼ サステナブルファッション*を身につけよう

*服を作ってから捨てるまで環境に気を配った取り組み。

㊼のワークシート

結果・冊子(ワークシート)など、くわしくは県センターHPへ



学校応募

参加いただいた学校のうち、全児童・生徒数に対する応募者数の率が高い学校について「優秀協力校」として小学校 4 校・中学校 1 校、「準優秀協力校」として小学校 3 校・中学校 1 校、また、「特別協力校」として中学校 2 校を選定し、環境教育にご活用いただくための教材費を贈呈しました。



本音が見える?! 応募シートの感想欄より(抜粋) チャレンジに参加した児童・生徒のコメント



チャレンジ 1 やってみよう! お家で地球温暖化防止

むだづかいがないから 気持ちいいな。 [小2]

化石ねんりょうをつかわないくらいし、作ってみたいです。 [小4]



公園とか車で行ってたけど、
自転車で行くようになった。 [小4]

今年で 3 回目のチャレンジだけど、年々、地球温暖化がしんこくになっているというニュースが流れてきて「やばいな」と思う。 [小6]

日々の小さな積み重ねがゼロカーボンにつながる
とわかった。一人の行動では成果が出ないので、
世界中の人、皆で取り組んでいきたい。 [中1]

「起きる寝る」で地球温暖化の対策になるのかな? と考えたけれど、確かに、夜電気を長くつけてるのと、すぐ消すのでは、電気を使う量があきらかに変わりました。 [中3]

チャレンジ 2 調べてみよう! ゼロカーボンへの道

㊦ パンフレット『上流県「ながの」から海をキレイに』を読んで プラスチックごみをへらそう

シャンプーなど、つめかえ用で買って
みました。かさばらないしゴミも減らせるので、
いい気分になれました。 [小6]

海に流れ出したプラスチックゴミの量が、
30 年後には魚よりも多くなるなんて、そ
んなこと絶対にだめだと思った。 [小6]

地区のクリーンウォークで川
の清そうを行うけれど、年
に1度だけだから、清そうし
ない間に海にゴミが流れて
いると思うと、とても心が
痛いと感じました。 [中2]

外出をするとき、1 本でもペットボトルのゴミを出さないように、水とうに飲み物を
入れて持って行った。水とうの方がぬるくなりやすいから良いなと思った。 [中3]



㊧ 「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」で お家の屋根でどのくらい太陽光発電ができるか調べよう

おうちで つかってる でんきの は
んぶんは おひさまの ちからで
つくれる ことが わかった。 [小1]



佐久市を上からみると、みんなほとんど屋根にソーラーパ
ネルがはってあって、「みんな地球温暖化防止、CO₂ さくげんにとり
くんでいるんだな」と、なんか心があたたかくなりました。 [中3]

自分の家は太陽光発電に「最適」であるを知って驚いた。もし太陽光発電をしたら、1 年で 30,000 円くらいは電気代を
節約できるということなので、お母さんやお父さんと相談して、太陽光発電やってみようかな、と思った。 [中2]

㊨ 信州産の野菜・果物を食べて 「おいしい信州ふーど de ビンゴ」に挑戦しよう

おうちのはたけで とれた
おやさいを たべていま
す。おいしいです。 [小1]

(野菜のビンゴに○がついたのは)きの
ことレタス、はくさいだけだったから、
ながいもも食べてみたいです。 [小3]

りんごの「秋ばえ」をたべてみて、
とってもおいしいし、すごく色がきれいで、
秋にぴったりだと思いました。 [小5]



地産地消は、地域の活性化だけでなく、地球温暖化防止にも効果があることを知り、とてもおどろきました。 [中3]

㊩ かるたで遊んで「環境マーク探検」をしよう

エコマークが身近にたくさんあっておどろきました。
ノートやファイル、教科書と、授業に使う道具だけ
でも 10 個近くあり、日本がエコに力を入れている
ことを知ることができました。 [中2]



かるたであそんで、「ああ、あの物についていたマ
ークはこんな意味だったんだ」「このマークは知らな
かったな」と思いました。世の中に、環境マークの意
味が分かる人がふえれば良いと思います。 [小5]

㊪ サステナブルファッションを身につけよう

お姉ちゃんがいるので、おさがりを使おう
と思いました。着れなくなった服をアレ
ンジするのは、いいなと思いました。 [小5]

服もかんきょうに
関係があると分か
ってびっくりした。 [小6]

私は服が好きで、たくさん買ってしま
うことがあったけれど、本当にほ
しいものだけを買って、大切に
使っていきたいです。 [小6]



一日にトラック 130 台分の服
が捨てられているのを知って、
とてももったいなく感じた。服は
上下の組み合わせでたくさん考
えて楽しめるのに…。 [中2]



今の時代、服のほとんどがナイロン・ポ
リエステルなどの石油を主な原料と
する服なんだなと思った。地球を
ゼロカーボンに近づけていくには、
3R が本当に重要なんだなと分
かった。 [小6]



🌐 温暖化防止活動推進センター通信 🌐



うんこ先生の出前授業「地球温暖化 長野県編」 ついに東御市全小学校で開催！

当センターの主力コンテンツへと成長しつつある『うんこドリル「地球温暖化 長野県編」』。出前授業も積極的に行っており、今年度は東御市生活環境課の全面協力で、市内すべての小学校で授業が実現しました！

授業では、ドリルに掲載されている問題をベースに、「令和元年度東日本台風の時、学校やお家の周りはどうだった？」「先生が子どもだった頃と今はどう違う？」「学校の近くでよくとれる野菜や果物は？」といった質問を加え、地球温暖化の影響や対策について身近な視点から考えてもらいました。どの学校でも共通していたのが、夏に気温が上がり過ぎて、校庭や体育館（一部の学校ではプールも！）が使えない日があったこと。温暖化の進行は学校生活も変えつつあるのか…と衝撃でした。

勉強の後は記念撮影と握手会♪ 今後、気候変動や地球温暖化のニュースを見たときに、「そういえば、うんこ先生と勉強したなー」と思い出してもらえたら嬉しいです。



↑なんと！イラスト入りのファンレターもいただきました（祢津小）

きたみまき
北御牧小 3年
11/12📍体育館

さっそくみんなで
教室の電気を
半分消しました



地球おんだんかになると、ふつうの生活ができなくなってしまうから、うんこ先生とのやくそくをきちんと守ろうと思った。

しげの
滋野小 3年
11/12📍視聴覚室



車のはいきガス、電気、牛のゲップなどで地球がとても暑くなっていることは知りませんでした。



ねっ
祢津小 2年
11/14📍プレイルーム

台風の時
先生はね…



だいすきなうんこ先生が がっこうにくるなんて めちゃくちゃびっくりした！

かのう
和 小 2年
11/18📍小体育館



↑感想用紙にもイラストが🌟（和 小）

ちきゅうのおんどうがあがると、（長野県でとれる果物がりんごから）みかんになっちゃうのがびっくりしました。



田中小 2・3・4年
11/14📍・19📍
視聴覚室

うんこ先生、いろいろしたよ。ものをたいせつにするよ。でんきはちゃんとけすとおぼえました。

うんこ先生が3年の中で一番の思い出になりました!!

自分たちがどうすればもっと未来をよくできるのかを、よく考えられる勉強でした。

4年生には深掘りスペシャル問題も出題！



ゼロカーボンCMコンテスト2024 結果発表

信州環境カレッジで「ゼロカーボンに向けて脱炭素ライフスタイルを発信しよう!」をテーマに 30 秒 CM を募集 (9/1~10/31) したところ、13 点の応募がありました。11 月 15 日(金)の審査会で、以下のとおり入賞作品を決定し、12 月 14 日(土)、くらしふと信州(長野市)にて表彰式を行いました[写真]。

長野県知事賞を受賞した荒井佑太さんは、「環境問題が注目される今、私たち一人ひとりの行動が未来を変える力を持っていると考えます。この CM が、ゼロカーボンへの関心を高め、環境に配慮した行動を始めるきっかけになれば幸いです。」とコメントされました。



👑 長野県知事賞

【ゼロカーボンアクションで未来をつくろう】 荒井 佑太さん

👑 審査員賞

【ゼロカーボン先生と一緒にゼロカーボン】

長野県稲荷山養護学校高等部 3 年 2 組の皆さん

長野県知事賞
受賞作品 →

👑 協賛企業賞

- KOA 賞 【SHOE SHINE】 松本市立梓川小学校 6 年 4 組の皆さん
- 岡谷酸素賞 【服と私達!】 辰野高校地域探究コース 3 年 落合 柚希さん
- 八十二銀行賞 【ずくだせゼロカーボン大作戦】 飯田西中学校家庭科 2 年の皆さん

長野県知事賞となった作品は、2 月に abn 長野朝日放送で CM として放送されました。入賞作品は長野県庁等で随時放映されていますが、信州環境カレッジのホームページでも →



年末恒例カレンダープレゼント会

年末恒例のカレンダー・手帳プレゼント会は、昨年同様 5 支部で開催されました。カレンダーを作成する企業も少なくなり、楽しみにしている皆さんにご満足いただける数が集まるか心配な状況でしたが、多くの企業の皆さんのご協力により、全体では昨年並みにカレンダーが集まりました。



集まったカレンダーは、今回も文字中心のカレンダーが多くなるとともに、卓上型も増えていました。

1998(平成 10)年に開始以来、カレンダー 30 万部・手帳 5 万冊を超える配布実績となりました。

■ 支部別頒布数 ■

	カレンダー	手帳
北信	4,387	431
中信	4,116	434
諏訪	1,661	102
伊那	410	43
飯田	1,013	131
計	11,587	1,141
前年	11,417	1,444
累計	303,208	50,697

☞北信支部の様子 (2024/12/27 長野市・もんぜんぶら座地下ホール)



【発行元】 〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

☐「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2025 年 3 月 3 日発行

● 一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

● 長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

● 長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

